

探訪 チャレンジ企業 53

「竹」に夢をのせて!

ゆめづくり

夢創くりから竹笛工房：津幡町

一誰にでも簡単に吹ける竹笛

津幡町の市街地から車で十五分程の俱利伽羅峠に近い竹林が広がる山間に今回ご紹介する「夢創くりから竹笛工房」がある。代表の池内良輔さんと知人の北川さんらいづれも六十歳を越える四名で運営し、誰でも簡単に吹くことができ、竹笛を製作する。

従来の横笛や尺八といった竹笛は、初心者には吹くのが難しく、音色を出せるようになるには二、三ヶ月、場合によっては三年程練習が必要であるが、当工房で製作する竹笛は、子供でも、初心者でも



竹笛を製作、販売する工房

二竹との出会い

簡単に吹くことができる工夫が施されている。

元々池内さんは、金沢市内で水産加工会社を経営していたが、本田技研工業の創始者故本田宗一郎氏の著書の「会社は若い人に譲っていくべきだ」との言葉に感銘を受け、今から十七年前の五十六歳の時に会社を長男に譲ることを宣言。自身は第二の人生を謳歌しようと、それまで憧れていた田舎暮らしを実践するため、津幡町の山間にある旧家を購入し夫婦で移住したのが、契機となった。

そこで目の当たりにしたのが、手入れされずに荒れていた竹林で、何とか有効利用できないかと思案していたところ、長野県でドラム缶を使っ

三竹笛の音色に魅せられて

しかし、竹炭が全国的なブームになる中、中国などからの安価品の流入により、一時の勢いはなくなり、生産量も大きく落ち込むこととなった。

そうした中、竹炭の原材料としていた竹、自身に興味湧くようになり、暫くは竹トンボや竹人形などの竹細工づくりに励んでいたが、旅行で訪れた南米のポリビアで出会ったケーナという竹製の笛の音色に感動する一方、自然素材である竹笛ならば子供たちの情操教育にも一役買えるのではないかと、帰国後、製作

り、長野県の生産者を訪ねて指導を受けて、竹炭づくりの道に入った。その後、ドラム缶を利用したドラム窯、生産能力を格段に向上させた鉄窯を独自に開発、さらに焼成工程にひと手間かけて高品質の竹炭づくりを進め、「竹炭を津幡町の特産品に」と、地域おこしの観点から平成八年には、俱利伽羅竹炭生産組合を結成し本格的な生産に取り組んだ。

四竹笛づくりへの挑戦

ところが、竹笛を量産化していくにはいくつかの壁が立ちほだかることとなる。

まず初めの壁が、竹笛に適した竹材の入手であった。竹笛には、節と節の間隔が四十cm以上必要であるが、地元の竹林にはなかなか適した竹材が見当たらなかった。方々を当たると、能登の間垣用の竹材が適していることを知り、昔の商売仲間の助けを借りて入手することができたのである。

次の壁が、通常は三、四年の自然乾燥が必要とされる竹材の乾燥期間の問題であった。それを解決したのが、遠赤外線を使って四、五日間で乾燥させることのできる特殊な装置の開発であった。これにより、竹笛製作の前工程が劇的に短縮化されることとなった。

そして、冒頭でも紹介した、誰にでも吹ける竹笛にするため、歌口部分に特殊な部品を加えたり、指孔の位置や寸法・形状の調整などの改良により商品化を実現させたのである。

五湧き出すアイデアと次の展開

現在、当工房で製作するのは、竹笛だけに止まらない。

珪藻土で整形し、竹炭で燻したペット用骨壺や、竹炭の粉末を台紙に付着させた真っ黒な観



当工房で製作する竹笛

賞用色紙の開発である。その他にも、竹炭釜を利用して、パイナップルやバナナといった果物などを炭焼きにした鑑賞品もある。

「夢が大好き」という池内さんは、近い将来、工房の裏側にある空き地と竹林を利用して竹に関する学習ができる「竹の博物館」の建設を実現したいなどと、七十二歳という年齢に負けず、その夢は尽きることがない。

(お問い合わせ)

夢創くりから竹炭工房

事務所：〒九九二九〇四四二
石川県河北郡

津幡町大坪ワ七六
TEL〇七六一二八八〇四二四
工場：〒九九二九〇四四二
石川県河北郡

津幡町東荒屋ワ二一一
(俱利伽羅竹炭生産組合内)
TEL〇七六一二八八〇三九三

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお尋ねください。